

愛媛果研ニュース

No.43 令和7年9月



愛媛県の令和6年産温州ミカンの収穫量は、農林水産省のまとめによると約7万6千トンで和歌山県、静岡県に次ぐ全国第3位となりました。当初より裏年と予想されていましたが、果樹カメムシ類の異常発生、日焼け症や鳥獣害の増加などにより著しく減少しました。

また、日本の平均気温が2年連続で観測史上を更新するなど、近年、果樹の生産環境は大きく変化しています。気象変動に対応した新しい栽培技術の開発や新品種の育成に、強い責任感をもって取り組むと考えています。

一方、令和7年3月から「紅プリンセス」（品種名：愛媛果試第48号）の本格販売が始まりました。本県の新しいブランドとして注目され、一定の評価をいただいておりますが、様々な問題点も把握することができました。今後、生産量の増加が見込まれており、「紅プリンセス」への合格率向上に向けて、関係機関と連携してまいります。

さて、今回の果研ニュース No. 43 では、

- ① カンキツのゲノム編集利用に向けた培養技術の開発
- ② 果樹カメムシ類の発生動向について
- ③ 液体石灰肥料による施肥及び土壌改善の省力化、について取り上げました。

ゲノム編集による新品種育成研究、果樹カメムシ類の発生要因の解析と今後の予測、自動液肥かん水システム利用による高品質省力化技術についてご紹介します。

今後の果樹生産の参考にしていただけましたら幸いです。

果樹研究センター みかん研究所長 菊地 毅洋